

水難救助の世界大会ユース部門

将来の海猿へ自信のメダル

ボランテニアなどでラ、水難救助技術などを ス部門（19歳以下）で、イフセービングに携わる 競う「レスキュー2011 九州から唯一出場した専世界各地の精鋭が集ま 2 世界選手権」のユ 門学生、菅卓也さん（19）

福岡市の菅さん



「レスキュー2012 世界選手権」のユース部門で銀と銅のメダルを獲得した菅卓也さん

「人助けを仕事に」経験も拒校登

福岡市東区下原が団体競技で銀、銅メダルを獲得した。「海猿」として知られる海上保安庁の潜水士を目指す菅さんには大きな自信となった。

の頭を抱えてプールを泳ぐ「25歳マネキンリレー（4人出場第2泳者）」で銀、足ヒレなどを装着する「50歳メドレーリレー（同）」でも銅を獲得した。幼稚園から高校まで続けていた水泳経験を生かしたメダルだった。昨年春に卒業した新宮高校（新宮町）では2年大会への出場も果たした。現在は、福岡市博多区に選ばれたことで世界大会への出場も果たした。

大会は国際ライフセービング連盟の主催で、昨年11月にオーストラリア・アデレードで開催。砂浜やプールを舞台に、救助用ボードを使った競泳や、砂浜に立てた旗を奪い合うビーチフラッグスなどの種目が実施された。菅さんは計8種目に出場。救助が必要な人に見立てたマネキン（約40歳）

高校3年の春には、新宮海岸をパトロールするボランテニア団体「新宮ライフセービングクラブ」に入り、海水浴客らの水難救助にも取り組んだ。実技や筆記試験に合格し、日本ライフセービング協会の会員にユースの強化指定選手に選ばれたことで世界大会への出場も果たした。

現在は、福岡市博多区の公務員ビジネス専門学校救急救命士学科に在籍。2015年春の卒業を目指す菅さんは「ライフセービングを初めて知った。同時期に東日本大震災が起き、「得意の泳ぎを生かして人助けがしたい」との思いが日増しに強まり、布団から掛け出したい」と目を輝かせた。

（阿比留北斗）